

# IV-2 東北

訪日外国人は引き続き増加傾向、特に青森県が好調  
官民を問わずインバウンド強化の取り組みが加速  
民営化後、仙台国際空港の旅客数が過去最高を記録

## (1) 都道府県レベルの旅行者動向

観光庁「宿泊旅行統計調査」によると、2017年1～12月の東北地方の延べ宿泊者数は4,013万人泊となり、前年比0.2%の微増となった(図IV-2-1)。東日本大震災以降、2015年までは順調に増加を続けてきたが、2016年に前年を下回り、2017年はほぼ同じ水準に落ち着いた。

県別にみると、福島県(6.5%増)と宮城県(2.2%増)が増加し、他4県(青森県7.6%減、岩手県2.7%減、秋田県1.6%減、山形県3.7%減)が前年割れとなった。

外国人延べ宿泊者数は、前年比46.9%の大幅増、106.6万人泊となり過去最高を更新した(図IV-2-2)。

福島県が65.2%増、青森県が62.5%増、秋田県が56.3%増、岩手県が42.3%増、山形県が33.6%増、宮城県が32.7%増となった。樹氷やスキーなどに加えて紅葉の人気も高まり、北東北を中心に外国人旅行者が増加した。

都道府県別の伸び率で、福島県は大分県に次いで47都道府県の中で2位、青森県が3位、秋田県が4位となり、岩

手県も9位を記録した。

青森県は延べ宿泊者数(26.0万人)で宮城県(26.4万人)とほぼ同数となった。天津(中国)との定期便の就航(2017年5月)、ソウル便の増便(2017年10月)などの交通環境の充実に加えて、外国人個人旅行者を主な対象とする受入環境改善対策強化事業(青森県)などの実施が外国人旅行者の誘客を下支えしたとみられている。

## (2) 観光地の主要な動き

### ① 地方・都道府県レベル

#### ● 東北のまつりの動向

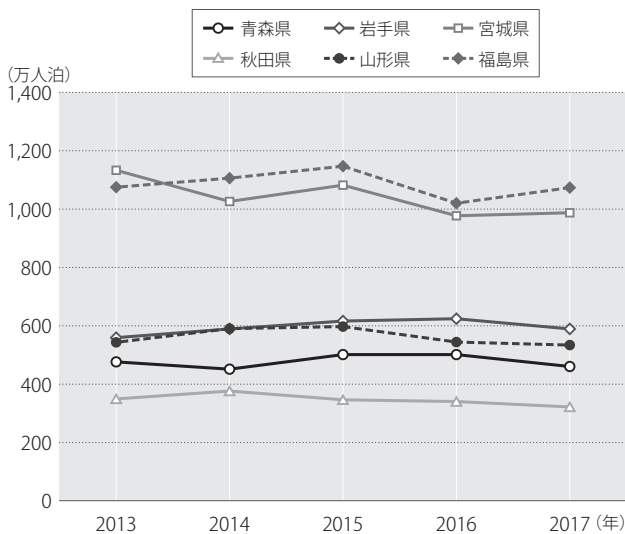
#### ○ 東北の夏まつり

東北各県の代表的な夏まつり(6件)が、2017年8月1～8日にそれぞれ2～6日間の会期で開催された。来場者数は、天候不順などの影響もあり、合計で853万人(前年比96.1%)と前年を下回り、東日本大震災のあった2011年(849万人)に近い水準に留まった(表IV-2-1)。

外国人旅行者の増加もあって、青森ねぶた祭(282万人)は多くの来場者を集めたが、台風5号の接近に伴い一部の屋外行事を取りやめるなどした仙台七夕まつり(179万人)は、大幅に来場者を減らす結果となった。

そのほか、2017年は、2016年12月に国際連合教育科学文

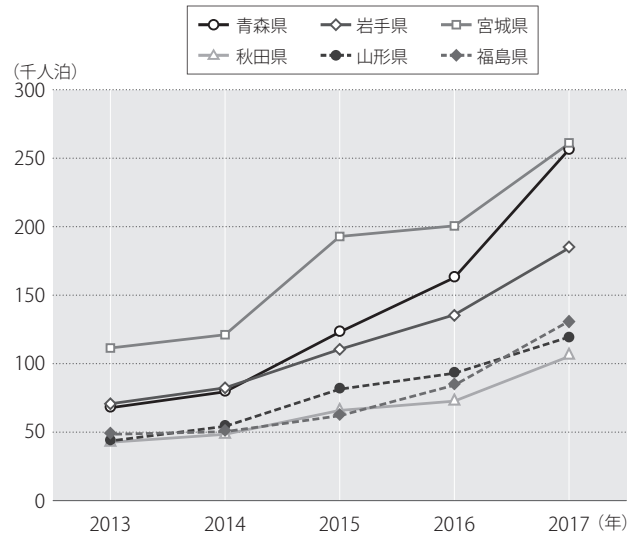
図IV-2-1 延べ宿泊者数の推移(東北)



青森県	476	451	501	501	462
岩手県	559	589	616	624	608
宮城県	1,133	1,026	1,082	977	998
秋田県	349	376	346	340	335
山形県	543	590	597	544	524
福島県	1,075	1,106	1,147	1,020	1,086

単位：万人泊  
資料：観光庁「平成29年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

図IV-2-2 外国人の延べ宿泊者数の推移(東北)



青森県	62	74	119	160	260
岩手県	65	77	106	132	188
宮城県	107	117	191	199	264
秋田県	36	42	60	67	105
山形県	37	48	76	88	118
福島県	42	44	56	79	130

単位：千人泊  
資料：観光庁「平成29年宿泊旅行統計調査」をもとに(公財)日本交通公社作成

表IV-2-1 東北夏まつりの来場者数

祭事名	開催地	来場者数							
		2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
青森ねぶた祭	青森県青森市	297万人	266万人	282万人	285万人	259万人	269万人	276万人	282万人
盛岡さんさ踊り	岩手県盛岡市	135万人	136万人	122万人	130万人	137万人	139万人	126万人	134万人
仙台七夕まつり	宮城県仙台市	236万人	203万人	200万人	206万人	204万人	218万人	228万人	179万人
秋田竿燈まつり	秋田県秋田市	135万人	130万人	139万人	141万人	126万人	140万人	132万人	131万人
山形花笠まつり	山形県山形市	100万人	91万人	100万人	90万人	63万人	98万人	100万人	99万人
福島わらじまつり	福島県福島市	28万人	23万人	25万人	24万人	25万人	26万人	26万人	28万人

資料：各資料をもとに（公財）日本交通公社作成

表IV-2-2 東北六魂祭、東北絆まつりの開催概要

	東北六魂祭						東北絆まつり	
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
開催地	宮城県仙台市	岩手県盛岡市	福島県福島市	山形県山形市	秋田県秋田市	青森県青森市	宮城県仙台市	岩手県盛岡市
開催日程	7月16日(土) 17日(日)	5月26日(土) 27日(日)	6月1日(土) 2日(日)	5月24日(土) 25日(日)	5月30日(土) 31日(日)	6月25日(土) 26日(日)	6月10日(土) 11日(日)	6月2日(土) 3日(日)
来場者数	約37万人	約24万人	約25万人	約26万人	約26万人	約27万人	約45万人	約30万人
経済効果	約103億円	約22億円	約37億円	約25億円	約31億円	約29億円	約44億円	データ無し

資料：各資料をもとに（公財）日本交通公社作成

化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に「山・鉾・屋台行事」として登録された、「八戸三社大祭の山車行事（青森県八戸市）」、「角館祭りのやま行事（秋田県仙北市）」、「土崎神明社祭の曳山行事（秋田県秋田市）」、「花輪祭の屋台行事（秋田県鹿角市）」、「新庄まつりの山車行事（山形県新庄市）」が、旅行者から注目を集めた。

#### ○東北六魂祭と東北絆まつり

東日本大震災以降、鎮魂と復興を願い開催されてきた「東北六魂祭」は、2016年に東北6県を一巡し、フィナーレを迎えた（表IV-2-2）。

2017年からは、後継イベントとして、「多彩な東北が、熱い絆で一つになる。」をテーマに、「東北絆まつり」が開催されている。1回目（2017年6月10～11日）は、仙台市で開催され、当初の予想（37.7万人）を大幅に上回る、約45.2万人を集めた。2回目（2018年6月2～3日）は盛岡市で開催、天候にも恵まれて約30.3万人の来場者で賑わいを見せた。

#### ●旅行者の受け入れ環境整備

##### ○観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議の開催

「明日の日本を支える観光ビジョン」に掲げる、東北6県の外国人宿泊者数を2020年に150万人泊とする目標を実現するため、「訪日外国人旅行者の受入に向けた東北ブロック連絡会」を発展的に改組し、「観光ビジョン推進東北ブロック戦略会議」が発足した。

6月、12月に開催された会合には、東北運輸局、東北地方整備局、東北6県、経済団体、観光関係団体など幅広い関係者が出席し、観光資源の魅力向上のあり方、受け入れ環境に関する現状と課題の共有と、今後の方向性などの確認がなされた。

#### ○東北観光推進機構の組織変更とDMO法人登録

2007年に地元経済界、東北6県、新潟県および仙台市などにより、観光振興と東北経済の発展に寄与することを目的に設立された「東北観光推進機構」が、2017年4月に一般社団法人化された。5月には、観光庁の「日本版DMO候補法人（広域連携DMO）」に、11月には正式に「日本版DMO法人」に登録された。

拡大を続ける訪日旅行需要の東北への取り込みや東日本大震災からの復興など、東北が一体となって取り組むべき課題の克服に向けて、更なる取り組みの強化が期待されている。

#### ○東北初の公式多言語観光アプリケーションの提供

東北観光推進機構では、2017年3月に、東北初の公式多言語観光アプリケーション「DISCOVER TOHOKU JAPAN APP」の提供を開始した。

同アプリケーションは、東北6県及び新潟県を対象として、もう一つの日本・東北 山の彼方の美しい四季と歴史文化、食文化を探索するルート【日本の奥の院・東北探訪ルート】を紹介するもので、日本語、英語、中国語（繁体字・簡体字）、タイ語に対応している。東北の観光コースの認知度向上による来訪者の増加が見込まれている。

#### ●旅行者の誘客、商品開発

##### ○福島県、新しい観光ルート「ダイヤモンドルート」提唱

福島県は、外国人旅行者の誘客を図るため、東京や京都、大阪などを巡る「ゴールデンルート」に対抗して、東京を起点に栃木と茨城、福島の3県を結ぶ新たな周遊観光ルート「ダイヤモンドルート」を提唱している。2017年2月、2018年1月には、自然や健康、歴史といった分野ごとに編集された動画も公開され、その美しい映像が大きな反響を呼んでいる。

また福島県は、2017年5月に、ナビタイムジャパンと共同で、「ダイヤモンドルート」の公式ガイドアプリケーション

「DIAMOND ROUTE JAPAN App」を開発し、モデルコースを発信、各県の観光情報、目的地までのナビゲーション、エリアガイドなどの提供を、多言語（日本語、英語、中国語（繁体字・簡体字）、韓国語）にて開始した。

#### ○JR東日本、日本航空、東北・九州で相互送客の取り組みを開始

JR東日本と日本航空は、東北エリアと九州エリアの相互送客を強化するため、東北観光推進機構や九州観光推進機構など各地のDMOの協力を得て、2017年12月より、旅行会社（JTBメディアリテリング、クラブツーリズム、阪急交通社、びゅうトラベルサービス）に対し、地域観光素材の紹介や旅行商品の設定（主に団体ツアー）に向けた働きかけを行った。これを受けて各社で航空機と着地側の鉄道を利用した周遊ツアーが商品化された。

#### ②広域・市区町村レベル

##### ●交通アクセス

##### ○民営化後、仙台国際空港の旅客数、過去最高を記録

2016年7月に民営化された仙台国際空港の2017年度の旅客数は343.9万人（前年比8.7%増）と過去最高を記録した。国内線は315.8万人（同7.5%増）、国際線は28.0万人（同24.4%増）であった。

民営化後、仙台国際空港は、着陸料の引き下げなどにより、格安航空会社（LCC）の誘致活動を積極的に展開し、国内線ではスカイマークの神戸線運航再開（2017年7月）やピーチ・アビエーションの札幌線新設（9月）、国際線では同じくピーチ・アビエーションの台北線新設（9月）などを実現してきた。

あわせて、東北6県や交通機関、旅行会社などとも連携し、海外での共同プロモーションやインフルエンサーの招聘事業などさまざまな取り組みを展開し、利用者の増加に努めてきたことが功を奏したと言える。

##### ●市町村の連携による観光推進の取り組み

##### ○仙台・松島復興観光拠点都市圏DMOの発足

2018年3月、宮城県と仙台市周辺6市3町（仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、東松島市、松島町、七ヶ浜町、利府町）に、宮城県内の観光関連業者らが設立した「インアウトバウンド仙台・松島」が加わり、「仙台・松島復興観光拠点都市圏DMO」（地域連携DMO）を設立した。

同DMOは、仙台市や仙台空港を拠点とする周辺エリアを復興観光拠点都市圏と位置づけ、台湾・中国・韓国・香港などのほか、東南アジア諸国や欧米豪を重点市場として誘客に取り組み、2020年には外国人宿泊者数50万人泊を目指すとしている。

##### ●旅行者の誘客、商品開発

##### ○SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）の認定

農林水産省は、2016年度に、地域の食とそれを生み出す

農林水産省を核に外国人を中心とした旅行者の誘致を図る地域での取り組みを、「SAVOR JAPAN（農泊 食文化海外発信地域）」として認定する制度を創設した。2017年度までに全国で15地域、東北地方からは4地域（岩手県一関市・平泉町、山形県鶴岡市、秋田県大館地域、福島県会津若松市）が認定されている。

国による国内外での情報発信などさまざまな支援を受け、認定地域では、旅行者の誘客、地域の活性化に向けて、地域の食をはじめ、気候、風土、景観、歴史・文化などの資源を効果的に活用した更なる取り組みの進展が期待されている。

表IV-2-3 東北地方における「SAVOR JAPAN」認定地域の概要

地域	実行組織	地域の食	内容
(2016年度認定)			
一関市・平泉町（岩手県）	一関もち食推進会議	もち料理	武家社会の儀礼から生まれた「もち本膳」に加え、旬の農産物を活かした多彩なもちの具が創作され、その食べ方のバリエーションは約300種。生活や生業に関連した「もち食文化」による地域ブランディングを実施。
鶴岡市（山形県）	鶴岡食文化創造都市推進協議会	精進料理	50種類以上の生きた文化財「在来作物」や、出羽三山に伝わる精進料理と精神文化を体感し、宿坊、農家・漁家民宿、温泉等で外国人旅行者が長期滞在できる周遊ルートを提供。
(2017年度認定)			
大館地域（秋田県）	（一社）秋田犬ツーリズム	きりたんぼ	地域の伝統食「きりたんぼ」と「秋田犬」、「マタギ」の歴史的關係に焦点を当て、「きりたんぼ」の誕生ストーリーを農家とのふれあいにより体感することができる。
会津若松市（福島県）	会津若松市食と農の景勝地推進協議会	伝統ごっつお会津清酒	会津の伝統料理・会津清酒と、それに関連した武家文化の歴史的魅力を、訪日外国人の趣向に合わせた複数の周遊ルートでの「食・酒」の提供等により体験。

資料：農林水産省ホームページをもとに（公財）日本交通公社作成

##### ○仙台市、東北の観光案内所のネットワーク化事業を開始

仙台市は、2017年6月より、外国人旅行者の東北周遊などを促進するため、「東北の観光案内所のネットワーク化事業」を開始した。インターネット電話サービス（Skype）を利用して東北の観光案内所をネットワーク化し、東北の多様な魅力やタイムリーな情報を多言語で提供したり、首都圏向けに共同で観光情報を発信しているほか、東北の外国人旅行者の動向分析なども行っている。

2017年度は、観光案内所の外国人利用客が約38,000人増加、WEBやアプリによる外国人旅行者への情報発信数は約6,300回、外国人旅行者へのパンフレット配布数は約4,000部となった。

同事業は、外国人旅行者に好評だったことから、ネットワー

クに参画する観光案内所を、当初の20か所から、2018年6月には32か所にまで拡大している。

○日本航空、百戦錬磨、仙北市、農泊ツアーを発売

日本航空は、民泊サイトを運営する百戦錬磨、秋田県仙北市農山村体験推進協議会との協業により、仙北市の農家民宿（4施設）で農業や郷土料理作りが体験できる「農泊ダイナミックパッケージ」（宿泊対象期間:2018年5月7日～10月31日）の販売を開始した。農泊はJALダイナミックパッケージでは初の取り組みであり、日本航空では、今後、旅行者のニーズや需要の増加に合わせて掲載施設を増やし、販売強化を行う予定である。

表IV-2-4 東北の観光案内所のネットワーク化事業の概要

事業目的	外国人旅行者の東北周遊の促進、外国人旅行者の満足度向上、仙台市及び東北全体へのさらなる外国人旅行者の誘致など
事業開始日	2017年6月2日（金）
実施主体	仙台市
事業への参画自治体・観光案内所	2018年6月現在 28都市32箇所 【青森県】青森市観光交流情報センター（JR青森駅前）／弘前市観光案内所（JR弘前駅構内）／はちのへ総合観光プラザ（JR八戸駅構内）／十和田湖観光交流センター“ぶらっと”（十和田湖畔休屋）／下北観光案内所（JR下北駅前）
	【岩手県】いわて・盛岡広域観光センター（JR盛岡駅構内）／宮古駅前総合観光案内所（JR宮古駅前）／花巻観光センター（JR新花巻駅構内）／釜石観光総合案内所（JR・三陸鉄道釜石駅隣り）／平泉観光案内所（JR平泉駅前）
	【宮城県】仙台市観光情報センター（JR仙台駅構内）／仙台ツーリストインフォメーションデスク（藤崎本館1階）／みちのく観光案内（仙台国際空港）／気仙沼駅前観光案内所／白石市観光案内所（JR白石駅構内）／古川駅総合観光案内所／松島観光協会V案内所（JR松島海岸駅併設）
	【秋田県】秋田市観光案内所（JR秋田駅構内）／大館市観光案内所（JR大館駅構内）／男鹿駅前観光案内所／仙北市観光情報センター「角館駅前蔵」（JR角館駅前）／仙北市田沢湖観光情報センター「フォレイク」（JR田沢湖駅構内）
	【山形県】山形市観光案内センター山形駅観光案内所／置賜広域観光案内センター ASK（JR米沢駅構内）／鶴岡市観光案内所（JR鶴岡駅構内）／もがみ情報案内センター（JR新庄駅構内）／かみのやま温泉観光案内所（JRかみのやま温泉駅前）
	【福島県】福島市観光案内所（JR福島駅構内、西口）／飯坂温泉観光案内所（福島交通飯坂温泉駅前）／会津若松観光案内所（V案内所、JR会津若松駅構内）／郡山市観光案内所（JR郡山駅構内）／いわき市総合観光案内所（JRいわき駅構内）
取組内容	①東北の観光案内所のネットワーク化 ・Skypeを活用した連携による広域観光案内 ・チャットワークを活用した情報の一元化 など ②共同での観光情報発信 ・外国人向け共通パンフレット、WEBサイト・アプリなどによる情報発信など ③東北における外国人旅行者の動向分析 ④人材育成・研修 ・合同研修会・交流会の開催 ・TIC TOKYO（JNTOカテゴリー3認定外国人観光案内所）での実地研修

資料：仙台市「記者発表資料」をもとに（公財）日本交通公社作成

（吉澤清良）